

歴史を裏切ったのは人間ですよねえ

藤野 高明 (大昭和八十代)

ロシアがあなた達の国に軍事侵攻した時、私は「歴史に裏切られた」と咄嗟に感じました。人類は長年に渡って戦争を繰り返してきました。人が殺され、傷つけられ貴重な文化が破壊されてきました。武器、弾薬の「進歩」は戦争を増々残虐なものに変えてきました。

一方人類は、国際連合をつくり人道に基づく新しい平和秩序の構築に努力してきました。まさか、ヨーロッパでしかも兄弟の国ロシアがウクライナに襲い掛かるなんて、心配はしていましたがそれが現実の戦争になってしまいました。「歴史に裏切られた」という私の直感の間違っていたようです。歴史を裏切ったのは、ロシアのプーチン大統領です。

戦争は、一旦起こってしまうと終わらせるのが大変です。そして、終わった後にも様々な困難と不幸を引きずるものです。私自身も、第二次世界大戦が日本の敗戦で終結した翌年、一九四六年夏、戦争が残した不発弾で両眼と両手を失いました。小学二年生でした。一緒にいた五才の弟は即死でした。戦後に我が家を襲った惨劇が、どんなに両親を驚愕させ苦しめたかは想像したくもありません。その後私は唇で点字を読むことを覚え、盲学校の世界史の教員として六十三才まで働き、今八十三才になります。

戦争は子ども達を殺し、障害者をはじめ弱い立場の人達を追

詰めます。ウクライナには、約二七〇万人の障害者がいてその安否はなかなか確認できないと聞きます。大変気掛かりです。一日も早く「世界のパンかご」と言われるあなた達の国に平和が戻ることを心から願い、今私達にできることを探し続けたいと思います。

（特別編 準優秀賞）